



夏真っ盛り 楽しんだサクランボ狩りと土器造り

朝から晴天となり、札幌地方の最高気温はこの夏初めて 30 度超えの 32.4℃となりました。スタッフや家族の皆さんの挨拶も「今日は暑いですね」から。



一方、今年は春先の低温により、農作物に影響が出ていると言われていて、皆で植えたジャガイモなどの生育が心配されます。農家は自然が農作物に及ぼす影響を絶えず心配しなければなりません。皆の今日の一番の期待はサクランボ狩り、そして、ほとんどの人が初体験となる縄文土器造りに挑戦しました。



【写真左上：サクランボって 美しい】 【写真上：木陰にセットされたテーブルと粘土 陶器造り開始】

サクランボ収穫 10:20~

西本果樹園でサクランボの収穫体験です。畑に入った途端に歓声が上がりました。たわな



【サクランボ収穫はうれしくなります】

実は真っ赤に熟し、真夏の光を浴びて宝石のように輝いていました。

収穫についての注意事項など説明を聞いた後、思い思いの枝からサクランボを摘み取り口に入ると「おいしい！」との声が一斉に。「こんなにたくさんサクランボ食べたことない」と話すお友達もいました。この後のジャム作りのために 500g を別に収穫しました。種類は水門、佐藤錦、紅秀峰です。

サクランボジャム作り 11:00~

八剣山果樹園に移動してのジャム作り。まずサクランボを簡単に水洗いして軸と種を取



【涼しい木陰でジャム作り】

り除きました。実を小鍋に入れ適量（実と同量）の砂糖を入れてとろみが出るまで煮詰めます。アクがどんどん出てくるので丁寧に取り除くことが美味しくする秘訣だとか。子どもの皆さんは、初めはガスや鍋の熱さに恐る恐るでしたが、次第に自信を得て作業をすることができました。

好みによって煮詰め具合を加減してフレッシュジャムの完成です。早速、食パンにつけて試食し、どの顔も満足げでした。ジャムは容器に入れて自宅に持ち帰りました。

野菜の手入れと観察 13:00~

【ジャガイモ】 5 月 14 日に種イモを植えて約 2 か月経ちましたが生育が心配されます。



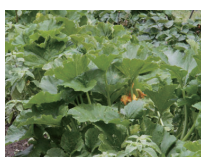
【昨年 7 月 10 日のジャガイモ】



【今年 7 月 9 日のジャガイモ】

見た目には大差がないようですが今年は茎や葉などの繁り方が少し弱いように思われます。今年は花がすでに終わっています。この差にはどのような原因があるのか、また収穫に影響があるのかも現時点でははっきりとわかりません。収穫は 8 月の予定です。

【カボチャ】 昨年は 5 月に植えて 9 月には十分に生長



【昨年 7 月 10 日のカボチャ】



【今年 7 月 9 日のカボチャ】

したため、予定より一か月早く収穫。今年はハロウィンに合わせるため遅らせて 6 月に定植しました。

【7 月 9 日の野菜たち】



【サツマイモ】



【枝豆（大豆）】



【ニンジン】



【落花生】

縄文土器造り 13:30~



【土器の底面に三角の頂部を切り取り】

① スタッフによって粘土の塊りがテーブルにセットされています。作業工程の説明を受けて初めての土器造りに取りかかりました。



② まず成形を始める前に粘土を練ったり棒で叩いたりして含まれている空気を抜く。



③ 平たく伸ばした粘土を幅 2cm 程度の棒状に切り分け、手のひらで転がしてひと塊にする。



④ 先に取り分けた底部の粘土の上に自分のイメージに従って形を整えながら③を順に重ねていく。



⑤ 形ができたら、木べらなどを使って表面を滑らかにする。必要に応じて模様をつける。

完成した土器は約 1 か月かけて自然乾燥させ、次回の農小祭に野焼きすることになっています。どんな仕上がりになるのでしょうか。

7月9日の活動



朝のミーティング



こぼれる笑み



自分で摘んだ格別なサクランボ



ジャム用も確保



軸と種を取り除く作業も楽しい



家ではなかなかできない共同作業



恐る恐る始まった煮詰め作業



完成したジャムは家に持ち帰り



落花生の手入れ（草取り）



陶芸スタート 真剣に取り組みました



自分の力でやり遂げたい



イメージを確認中



どんどん形にしていきました



集中力がすごい



模様付けなど 最終段階



完成した土器



陽光に輝くサクランボ

発行：砥山農業クラブ
 (代表 瀬戸修一 校長 桜井 学)
 住所：〒061-2275
 札幌市南区砥山126番地 八剣山果樹園内
 電話・FAX：011-596-2280
 E-mail: info-h@hakkenzan.jp
<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>